

指導計画書

2017年度 入学生用
柔道整復師科
【2019年度履修科目】

今村学園ライセンスアカデミー

カリキュラム、実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

柔道整復師科（平成29年度生カリキュラム）

	教育内容	授業科目	規程単位	規定時間	実務経験のある時間数（3年次）	実務経験
基礎分野	科学的思考の基盤	哲学	2	30		
		人間と生活	臨床心理学	2	30	
	人間と生活	経済学	2	30		
		保健体育	2	30		
		生物	4	60		
		外国語（英語）	2	30		
専門 基礎分野	人体の構造と機能	解剖学	5	150		
		生理学	4	120		
		運動学	4	120		
	疾病と傷害	病理学概論	2	60		
		衛生学	1	30		
		一般臨床医学	3	90		
		外科学概論	2	60		
		整形外科学	2	60		
		リハビリテーション医学	2	60		
	保健医療福祉と 柔道整復の理念	公衆衛生学	1	30		
		関係法規	1	30		
		医学史	1	30		
		柔道	4	120		
	専門分野	基礎柔道整復学	基礎柔道整復学	9	270	60
臨床柔道整復学		臨床柔道整復学	14	420	120	○
柔道整復実技		柔道整復実技	15	450	210	○
(臨床実習を含む)		臨床実習	1	45		
選 択 必須科目		介護概論	1	30		
		基礎医学特論	2	60		
		栄養学	1	30		
		柔整トレーナー	1	30		
		総合演習	3	90		
		合計	93	2,595	390	

指導計画書

教科名 解剖学
対象者 柔道整復師科3年
期間 前期 2019年4月1日 ～ 2019年9月30日
実務経験のある講師による指導 (全て ・ 一部 なし ・ その他())
講師名 横山 幸三

指導内容及び指導方法

目的:

人体の形態と構造を学び、健康と病気の成り立ちを理解するための基礎知識を習得することを目的とする。

講義内容:

- 第1回 細胞、組織、発生、骨格系総論
- 第2回 骨格系(脊柱、胸郭、上肢)
- 第3回 骨格系(下肢、頭蓋)
- 第4回 筋系(頭部、頸部、胸部、腹部、背部)
- 第5回 筋系(上肢、下肢)
- 第6回 筋系(下肢)、脈管系(心臓)
- 第7回 脈管系(動脈、静脈、胎児循環、リンパ)
- 第8回 消化器
- 第9回 呼吸器、泌尿器
- 第10回 生殖器、内分泌
- 第11回 中枢神経①
- 第12回 中枢神経②
- 第13回 末梢神経
- 第14回 感覚器
- 第15回 体表解剖

修了認定の基準

- ・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
 - ・単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
 - ・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
 - ・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
 - ・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
- この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

- ・単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。

使用教科書

1. 全国柔道整復学校協会監修 解剖学(医歯薬出版)
2. 演習プリント

指導計画書

教科名 運動学
対象者 柔道整復師科3年
期間 前期・後期 2019年4月1日 ～ 2020年3月31日
実務経験のある講師による指導 (全て・一部 なし・その他())
講師名 横山 幸三

指導内容及び指導方法

目的:

人間の正常運動のしくみを学び、健康と病気の成り立ちを理解するための基礎知識を習得することを目的とする。

講義内容:

第1回	姿勢	第1回	運動学と運動力学
第2回	姿勢	第2回	運動器の構造と機能
第3回	姿勢の演習	第3回	神経系
第4回	姿勢の演習	第4回	上肢の運動
第5回	歩行	第5回	上肢の運動
第6回	歩行	第6回	下肢の運動
第7回	歩行	第7回	下肢の運動
第8回	歩行	第8回	体幹の運動
第9回	歩行の演習	第9回	顔面と頸部の運動
第10回	歩行の演習	第10回	姿勢
第11回	運動発達	第11回	歩行
第12回	運動発達	第12回	歩行
第13回	運動発達の演習	第13回	運動発達
第14回	運動学習	第14回	運動発達
第15回	運動学習の演習	第15回	運動学習

修了認定の基準

- ・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
 - ・単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
 - ・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
 - ・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
 - ・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
- この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

- ・単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。

使用教科書

1. 全国柔道整復学校協会監修 運動学(医歯薬出版)
2. 演習プリント

指導計画書

教科名 病理学概論
 対象者 柔道整復師科3年
 期間 前期・後期 2019年4月1日 ～ 2020年3月31日
 実務経験のある講師による指導 (全て ・ 一部 なし ・ その他())
 講師名 森岡 洋史・末吉 和宣

指導内容及び指導方法

実際の疾病の鑑別診断、処置法、治療法・予防に役立てる為に、
 疾病における臓器・組織・細胞の形態の変化、疾病の原因・発生機序を理解し、
 また病理学における国家試験レベルの実力に到達することが目的である。

講義内容:

第1回	病理とは、病理とは	第1回	循環障害、炎症
第2回	病理とは、病理とは	第2回	炎症
第3回	疾病の一般、病因	第3回	炎症
第4回	疾病の一般、病因	第4回	進行性病変、炎症
第5回	病因	第5回	進行性病変、炎症
第6回	病因	第6回	免疫異常、炎症
第7回	病因	第7回	免疫異常、炎症
第8回	病因	第8回	免疫異常、腫瘍
第9回	病因、細胞障害	第9回	免疫異常、腫瘍
第10回	病因、細胞障害	第10回	腫瘍
第11回	細胞障害	第11回	腫瘍
第12回	細胞障害	第12回	腫瘍
第13回	循環障害、細胞膜	第13回	腫瘍
第14回	循環障害、細胞膜	第14回	先天異常、腫瘍
第15回	循環障害、炎症	第15回	先天異常、腫瘍

修了認定の基準

- ・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
- ・単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
- ・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
- ・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
- ・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

- ・単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。

使用教科書

病理学概論 第2版 (社)全国柔道整復学校協会監修
 関根一郎著 医歯薬出版

指導計画書

教科名 一般臨床医学
 対象者 柔道整復師科3年
 期間 前期・後期 2019年4月1日 ～ 2020年3月31日
 実務経験のある講師による指導 (全て ・ 一部 なし ・ その他())
 講師名 森岡 芳子

指導内容及び指導方法

講義内容:

第1回	第4章 主要な疾患(A. 呼吸器疾患)	第1回	第4章 主要な疾患(F. 血液・造血器疾患)
第2回	〃	第2回	第4章 主要な疾患(G. 腎・尿路疾患)
第3回	第4章 主要な疾患(B. 循環器疾患)	第3回	〃
第4回	〃	第4回	第4章 主要な疾患(H. 神経疾患)
第5回	〃	第5回	〃
第6回	第4章 主要な疾患(B2. 消化器疾患)	第6回	〃
第7回	〃	第7回	第4章 主要な疾患 (J. リウマチ・アレルギー・免疫不全症)
第8回	第4章 主要な疾患(C. 肝・胆・膵疾患)	第8回	〃
第9回	〃	第9回	第4章 主要な疾患 (I. 感染症・性病、K. 環境要因による疾患)
第10回	第4章 主要な疾患(D. 代謝・栄養疾患)	第10回	国試対策
第11回	〃	第11回	国試対策
第12回	〃	第12回	国試対策
第13回	第4章 主要な疾患(E. 内分泌各論総論)	第13回	国試対策
第14回	〃	第14回	国試対策
第15回	第4章 主要な疾患(F. 血液・造血器疾患)	第15回	国試対策

修了認定の基準

- ・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
- ・単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
- ・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
- ・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
- ・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

- ・単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。

使用教科書

一般臨床医学(医歯薬出版株式会社)

指導計画書

教科名 外科学概論
対象者 柔道整復師科3年
期間 前期 2019年4月1日 ～ 2019年9月30日
実務経験のある講師による指導 (全て・一部・なし・その他())
講師名 今村 勉・牛島 孝・水枝谷 渉

指導内容及び指導方法

外科学概論の以下の各項目について、実例を交えながら解説を行い、外科学の基礎を学ぶことで、各論の学習に繋げることを目的とする。

講義内容:

- 第1回 オリエンテーション、損傷(1)、損傷(2)
- 第2回 創傷(1)、創傷(2)
- 第3回 熱傷
- 第4回 心肺蘇生法
- 第5回 炎症と外科感染症(1)
- 第6回 炎症と外科感染症(2)、腫瘍(1)
- 第7回 腫瘍(2)
- 第8回 ショック
- 第9回 手術
- 第10回 輸血と輸液(1)
- 第11回 輸血と輸液(2)
- 第12回 消毒と滅菌
- 第13回 麻酔
- 第14回 移植と免疫
- 第15回 出血と止血

修了認定の基準

- ・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
- ・単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
- ・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
- ・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
- ・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

- ・単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。

使用教科書

南江堂 外科学概論 (改訂第4版)

指導計画書

教科名 外科学概論
対象者 柔道整復師科3年
期間 前期・後期 2019年4月1日 ～ 2020年3月31日
実務経験のある講師による指導 (全て・一部・なし・その他())
講師名 森岡 芳子・牛島 孝

指導内容及び指導方法

柔道整復師が臨床を行う上で必要な一般外科の各論について
講義形式で授業を行う。

講義内容:

- 第1回 外科学各論について
- 第2回 脳神経外科解剖症候
- 第3回 脳神経外科疾患
- 第4回 甲状腺・頸部疾患
- 第5回 胸壁・呼吸器解剖生理
- 第6回 胸壁・呼吸器疾患
- 第7回 心臓解剖生理
- 第8回 心臓疾患
- 第9回 脈管疾患
- 第10回 乳腺疾患
- 第11回 消化器解剖・生理
- 第12回 腹部外科疾患の症状
- 第13回 腹部外科の代表的疾患
- 第14回 腹部外科のその他疾患
- 第15回 まとめ

修了認定の基準

- ・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
- ・単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
- ・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
- ・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
- ・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

- ・単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。

使用教科書

外科学概論
標準外科学、新臨床外科学 など

指導計画書

教科名 関係法規
対象者 柔道整復師科3年
期間 前期 2019年4月1日 ～ 2019年9月30日
実務経験のある講師による指導 (全て ・ 一部 ・ なし ・ その他())
講師名 今林 亮平

指導内容及び指導方法

法の定義について理解を深め、柔道整復師法の概要や知識を詳しく学習する。
さらに医療法や医師法など医療関連の職種の法規も教授する。また、柔道整復師は開業することができることから、医療経済や保険制度を理解し、それに伴う職業倫理を養うことを目的とする。
柔道整復師法の成り立ちについて学ぶ。それに関する柔道整復師や整形外科の歴史についても理解を深める。

講義内容:

- 第1回 I 序論 II 柔道整復師とその関係内容 A 第1章 総則
- 第2回 B 第2章 免許 1～3
- 第3回 B 第2章 免許 4～10
- 第4回 D 第4章 業務
- 第5回 E 第5章 施術所
- 第6回 F 第6章 雑則
- 第7回 G 第7章 罰則 6章の過去問
- 第8回 小テスト C 第3章 柔道整復師国家試験 H 第8章 指定登録機関及び指定試験期間
- 第9回 III 関係法規 A 医療従事者の資格 1. 医師法
- 第10回 罰則と名簿の登録の範囲の問題 III 関係法規 A 医療従事者の資格 2. 歯科医師法
3. 保健師助産師看護師法
- 第11回 罰則と過去問 III 関係法規 3. 保健師助産師看護師法 4. 診療放射線技師法
- 第12回 III 関係法規 A 医療従事者の資格 5. 臨床検査技師等に関する法律 6. 理学療法士及び作業療法士法
- 第13回 III 関係法規 A 医療従事者の資格 7. 視能訓練士 8. 言語聴覚士 9. 臨床工学技士 10. 義肢装具士
- 第14回 III 関係法規 A 医療従事者の資格 11. 救命救急士 12. 歯科衛生士 13. 歯科技工士 14. 薬剤師
- 第15回 復習

修了認定の基準

- ・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
- ・単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
- ・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
- ・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
- ・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

- ・単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。

使用教科書

関節法規 改訂第2版
リハビリテーション医学 第3版
整形外科学 第3版

指導計画書

教科名 医学史
対象者 柔道整復師科3年
期間 後期 2019年10月1日 ～ 2020年3月31日
実務経験のある講師による指導 (全て・一部・なし・その他())
講師名 今林 亮平

指導内容及び指導方法

医療の発展と現代医学について
法の定義や柔道整復師法、その関連内容についての学習
国家試験対策

講義内容:

- 第1回 B 医療法 1.医療法 第1章 総則
- 第2回 B 医療法 1.医療法 第1章 総則第2章 医療に関する選択の支援等
- 第3回 B 医療法 1.医療法 第3章 医療の安全の確保第4章 病院、診療所及び助産所
- 第4回 C 社会福祉関係法規 1～6
- 第5回 C 社会福祉関係法規 7D 社会保険関係法規 1～2 健康保険法
- 第6回 D 社会保険関係法規 3～4(介護保険法)
- 第7回 D 社会保険関係法規
- 第8回 E その他の関係法規(個人情報)
- 第9回 14 衛生行政と保険医療の制度
- 第10回 15 医療の倫理と安全の確保(ヒヤリハット)
- 第11回 医学史
- 第12回 国家試験対策
- 第13回 国家試験対策
- 第14回 国家試験対策
- 第15回 国家試験対策

修了認定の基準

- ・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
- ・単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
- ・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
- ・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
- ・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

- ・単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。

使用教科書

最新整形外科大系
関節法規 改訂第2版

指導計画書

教科名 基礎柔道整復学
 対象者 柔道整復師科3年
 期間 前期・後期 2019年4月1日 ～ 2020年3月31日
 実務経験のある講師による指導 (全て) 一部・なし・その他())
 講師名 今林 亮平

実務履歴	クリニック 他 柔道整復師
指導内容及び指導方法	
筋・腱・神経・血管・リンパ管・皮膚の損傷についての学習 治療法 骨折・脱臼の整復法 軟部組織の初期処置 固定法	
講義内容:	
第1回	オリエンテーション
第2回	5-3 筋の損傷A.筋の形態と機能
第3回	B.筋の損傷と概説 C.筋の損傷の分類
第4回	D.筋損傷の症状 E.筋損傷の治癒機序 F.筋損傷の予後
第5回	5-4 腱の損傷 A.腱の構造と機能
第6回	B.腱損傷の概説 C.腱損傷の分類
第7回	C.腱損傷の分類 D.腱損傷の症状 E.腱損傷の治癒機序
第8回	小テスト5-5 末梢神経の損傷 A.神経の構造と機能
第9回	A.神経の構造と機能 B.神経損傷の概説 C.神経損傷の分類
第10回	腱の損傷 小テスト C.神経損傷の分類 E.神経損傷の治癒機序 D.神経損傷の症状
第11回	D.神経損傷の症状 5-6 血管系、リンパ系の損傷 A.血管系の構造と機能 B.リンパ系の構造と機能 C.四肢血管損傷の概説
第12回	5-6 血管系、リンパ系の損傷 A.血管系の構造と機能 B.リンパ系の構造と機能 C.四肢血管損傷の概説 D.血管損傷の分類 E.血管損傷の症状
第13回	小テスト血液の生理学
第14回	5-7 皮膚の損傷 A.皮膚の形態と機能 B.皮膚損傷の概説 C.創傷の治癒機序
第15回	復習
第1回	第1回 上肢軟部組織損傷 肩の解剖(骨・筋・神経)
第2回	第2回 5.その他の疾患 a.五十肩(冷結肩) b.石灰性腱炎
第3回	第3回 c.変形性肩関節症、変形性肩鎖関節症 1.筋、腱の損傷 a.腱板断裂
第4回	第4回 b.上腕二頭筋腱損傷 2.スポーツ損傷
第5回	第5回 a.ベネット損傷
第6回	第6回 小テスト b.SLAP損傷
第7回	第7回 b.SLAP損傷 c.肩峰下インピンジメント症候群
第8回	第8回 d.リトルリーガー肩
第9回	第9回 3.不安定症 a.動揺性肩関節
第10回	第10回 4.末梢神経障害 a.肩甲上神経絞扼障害
第11回	第11回 b.腋窩神経絞扼障害
第12回	第12回 胸郭出口症候群
第13回	第13回 上肢損傷の診察チャート作成作業
第14回	第14回 上肢損傷の診察チャート作成作業
第15回	第15回 小テスト 復習
評価方法	
出席・小テスト・期末試験	
使用教科書	
柔道性復学・理論編 改訂第5版 標準整形学・最新整形外科大系等	

指導計画書

教科名 臨床柔道整復学
 対象者 柔道整復師科3年
 期間 前期・後期 2019年4月1日 ～ 2020年3月31日
 実務経験のある講師による指導 (全て) 一部・なし・その他())
 講師名 種子田 博史

実務履歴	整骨院 他 柔道整復師																																																												
指導内容及び指導方法																																																													
<p> 上肢脱臼の各論 骨折、脱臼の総論の知識をベースに課題に取り組む。 臨床例の画像、X線画像により、整復、固定、予後を学習する。 最近の知見、論文を紹介し学習する。 国家試験の対策をプリント、小テストと解説により知識、考え方を深める。 柔道整復師としての能力、評価力、説明力を育むことを目標とする。 </p> <p>講義内容:</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>鎖骨脱臼① 原因、分類</td> <td>第1回</td> <td>遠位橈尺関節脱臼②</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>② 発生機序 症状</td> <td>第2回</td> <td>橈骨手根関節脱臼①</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>③ 整復法 固定</td> <td>第3回</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>④ 合併症 治療 予後</td> <td>第4回</td> <td>月状骨脱臼①</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>肩関節脱臼①</td> <td>第5回</td> <td>〃 ②</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>〃 ②</td> <td>第6回</td> <td>〃 ③</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>〃 ③</td> <td>第7回</td> <td>手根中手関節脱臼①</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>〃 ④</td> <td>第8回</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>肘関節脱臼①</td> <td>第9回</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>〃 ②</td> <td>第10回</td> <td>中手指節関節脱臼①</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>〃 ③</td> <td>第11回</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>〃 ④</td> <td>第12回</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>肘内障 ①</td> <td>第13回</td> <td>指節関節脱臼①</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>〃 ②</td> <td>第14回</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>遠位橈尺関節脱臼①</td> <td>第15回</td> <td>③</td> </tr> </table>		第1回	鎖骨脱臼① 原因、分類	第1回	遠位橈尺関節脱臼②	第2回	② 発生機序 症状	第2回	橈骨手根関節脱臼①	第3回	③ 整復法 固定	第3回	②	第4回	④ 合併症 治療 予後	第4回	月状骨脱臼①	第5回	肩関節脱臼①	第5回	〃 ②	第6回	〃 ②	第6回	〃 ③	第7回	〃 ③	第7回	手根中手関節脱臼①	第8回	〃 ④	第8回	②	第9回	肘関節脱臼①	第9回	③	第10回	〃 ②	第10回	中手指節関節脱臼①	第11回	〃 ③	第11回	②	第12回	〃 ④	第12回	③	第13回	肘内障 ①	第13回	指節関節脱臼①	第14回	〃 ②	第14回	②	第15回	遠位橈尺関節脱臼①	第15回	③
第1回	鎖骨脱臼① 原因、分類	第1回	遠位橈尺関節脱臼②																																																										
第2回	② 発生機序 症状	第2回	橈骨手根関節脱臼①																																																										
第3回	③ 整復法 固定	第3回	②																																																										
第4回	④ 合併症 治療 予後	第4回	月状骨脱臼①																																																										
第5回	肩関節脱臼①	第5回	〃 ②																																																										
第6回	〃 ②	第6回	〃 ③																																																										
第7回	〃 ③	第7回	手根中手関節脱臼①																																																										
第8回	〃 ④	第8回	②																																																										
第9回	肘関節脱臼①	第9回	③																																																										
第10回	〃 ②	第10回	中手指節関節脱臼①																																																										
第11回	〃 ③	第11回	②																																																										
第12回	〃 ④	第12回	③																																																										
第13回	肘内障 ①	第13回	指節関節脱臼①																																																										
第14回	〃 ②	第14回	②																																																										
第15回	遠位橈尺関節脱臼①	第15回	③																																																										
修了認定の基準																																																													
<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。 ・単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。 ・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。 ・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。 ・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。 <p>この試験の点数は、実点の8割に計算される。</p>																																																													
評価方法																																																													
<ul style="list-style-type: none"> ・単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。 																																																													
使用教科書																																																													
<p>柔道整復学理論編・実技編、神中整形外科、関節の生理学(カパンディ)</p>																																																													

指導計画書

教科名 臨床柔道整復学
 対象者 柔道整復師科3年
 期間 前期・後期 2019年4月1日 ～ 2020年3月31日
 実務経験のある講師による指導 (全て) 一部・なし・その他()
 講師名 田口 賢太郎

実務履歴	整骨院 他 柔道整復師		
指導内容及び指導方法			
<p>上肢軟部組織損傷の理論・各論を総合的(病態・応用的)に捉え、他疾患との鑑別をし、上肢軟部組織損傷の評価(問診法等)や治療法(運動療法・指導管理)の講義及び実技。近年上肢軟骨組織損傷は臨床におきましても国家試験におきましても重要な位置となっている。臨床現場で活かせるような講義・実技を行っていく。</p>			
講義内容:			
第1回	腱板断裂損傷の分類、検査法	第1回	橈骨神経麻痺、後骨間神経麻痺の特徴について
第2回	上腕二頭筋損傷の分類、検査法	第2回	尺骨神経障害、肘部管症候群の特徴について
第3回	スポーツ損傷、ベネット損傷の特徴	第3回	パンナー病、変形性肘関節症の特徴について
第4回	スポーツ損傷、SLAP損傷の分類、特徴	第4回	三角線維軟骨複合体損傷の発生機序、治療法について
第5回	スポーツ損傷、肩峰下インピンジメント症候群の特徴	第5回	指側副靭帯損傷の特徴について
第6回	スポーツ損傷、リトルリーガー肩の発生要因、治療法	第6回	ロッキングフィンガーの発生機序、治療法について
第7回	動揺性肩関節の検査法、特徴	第7回	手根管症候群の特徴について
第8回	末梢神経障害、肩甲上神経絞扼障害、腋窩神経絞扼障害について	第8回	ギオン管症候群の発生機序、治療法について
第9回	五十肩の症状、治療法	第9回	キーンバック病の発生機序、治療法について
第10回	石灰性腱炎、変形性肩・肩鎖関節症の特徴	第10回	マーデルング変形の特徴について
第11回	肘部、側副靭帯損傷の特徴	第11回	デュブイトラン拘縮の発生機序、治療法について
第12回	スポーツ障害、野球肘の発生機序、治療法について	第12回	ド・ケルバン病の発生機序、治療法について
第13回	スポーツ障害、テニス肘の発生機序、治療法について	第13回	ばね指の特徴について
第14回	前腕コンパートメント症候群の発生機序、治療法について	第14回	ヘバーデン結節の発生機序、治療法について
第15回	正中神経麻痺、円回内筋症候群、前骨間神経麻痺の特徴について	第15回	ボタン穴変形、スワンネック変形の特徴について
修了認定の基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。 ・単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。 ・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。 ・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。 ・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。この試験の点数は、実点の8割に計算される。 			
評価方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。 			
使用教科書			
柔道整復学理論編、実技編 南江堂 神中整形外科学 南山堂、図解関節・運動器の機能解剖 協同医書 図解整形外科学診察の進め方 医学書院、 カバンディ関節の生理学 医歯薬出版、スポーツ外傷学 医歯薬出版			

指導計画書

教科名 柔道整復実技
 対象者 柔道整復師科3年
 期間 前期・後期 2019年4月1日 ～ 2020年3月31日
 実務経験のある講師による指導 (全て) 一部・なし・その他())
 講師名 坂元 敏朗

実務履歴	整骨院 他 柔道整復師																														
指導内容及び指導方法																															
<p>・下肢の骨折実技各論(骨盤より膝関節まで)</p> <p>・下肢骨折の理論・各論を総合的(病態・応用的)に捉え、他疾患との鑑別し、下肢骨折の評価(問診法等)や治療法(運動療法・指導管理)の講義及び実技</p> <p>講義内容:</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1回 下肢骨折 骨盤骨骨折について</td> <td style="width: 50%;">第1回 大腿骨遠位端部骨折 実技</td> </tr> <tr> <td>第2回 " 実技</td> <td>第2回 "</td> </tr> <tr> <td>第3回 骨盤骨骨折と股関節の軟部組織損傷との鑑別を行う</td> <td>第3回 "</td> </tr> <tr> <td>第4回 " (梨状筋・骨頭すべり症 他)</td> <td>第4回 大腿骨骨折と大腿部の軟部組織損傷との鑑別</td> </tr> <tr> <td>第5回 " (外転・内転・屈曲位拘縮)</td> <td>第5回 "</td> </tr> <tr> <td>第6回 骨盤骨と大腿部の軟部組織損傷との鑑別を行う</td> <td>第6回 "</td> </tr> <tr> <td>第7回 大腿骨近位端部骨折について</td> <td>第7回 膝関節部の骨折について</td> </tr> <tr> <td>第8回 " 包帯固定実技</td> <td>第8回 膝関節部骨折と膝周辺部軟部組織損傷との鑑別</td> </tr> <tr> <td>第9回 大腿骨骨幹部骨折について</td> <td>第9回 "</td> </tr> <tr> <td>第10回 " 整復固定実技</td> <td>第10回 "</td> </tr> <tr> <td>第11回 " 整復固定実技</td> <td>第11回 足関節部の骨折について</td> </tr> <tr> <td>第12回 大腿骨骨幹部骨折 復習</td> <td>第12回 足関節部骨折と膝周辺部軟部組織損傷との鑑別</td> </tr> <tr> <td>第13回 "</td> <td>第13回 "</td> </tr> <tr> <td>第14回 大腿骨遠位端部骨折について</td> <td>第14回 " 整復固定実技</td> </tr> <tr> <td>第15回 "</td> <td>第15回 復習</td> </tr> </table>		第1回 下肢骨折 骨盤骨骨折について	第1回 大腿骨遠位端部骨折 実技	第2回 " 実技	第2回 "	第3回 骨盤骨骨折と股関節の軟部組織損傷との鑑別を行う	第3回 "	第4回 " (梨状筋・骨頭すべり症 他)	第4回 大腿骨骨折と大腿部の軟部組織損傷との鑑別	第5回 " (外転・内転・屈曲位拘縮)	第5回 "	第6回 骨盤骨と大腿部の軟部組織損傷との鑑別を行う	第6回 "	第7回 大腿骨近位端部骨折について	第7回 膝関節部の骨折について	第8回 " 包帯固定実技	第8回 膝関節部骨折と膝周辺部軟部組織損傷との鑑別	第9回 大腿骨骨幹部骨折について	第9回 "	第10回 " 整復固定実技	第10回 "	第11回 " 整復固定実技	第11回 足関節部の骨折について	第12回 大腿骨骨幹部骨折 復習	第12回 足関節部骨折と膝周辺部軟部組織損傷との鑑別	第13回 "	第13回 "	第14回 大腿骨遠位端部骨折について	第14回 " 整復固定実技	第15回 "	第15回 復習
第1回 下肢骨折 骨盤骨骨折について	第1回 大腿骨遠位端部骨折 実技																														
第2回 " 実技	第2回 "																														
第3回 骨盤骨骨折と股関節の軟部組織損傷との鑑別を行う	第3回 "																														
第4回 " (梨状筋・骨頭すべり症 他)	第4回 大腿骨骨折と大腿部の軟部組織損傷との鑑別																														
第5回 " (外転・内転・屈曲位拘縮)	第5回 "																														
第6回 骨盤骨と大腿部の軟部組織損傷との鑑別を行う	第6回 "																														
第7回 大腿骨近位端部骨折について	第7回 膝関節部の骨折について																														
第8回 " 包帯固定実技	第8回 膝関節部骨折と膝周辺部軟部組織損傷との鑑別																														
第9回 大腿骨骨幹部骨折について	第9回 "																														
第10回 " 整復固定実技	第10回 "																														
第11回 " 整復固定実技	第11回 足関節部の骨折について																														
第12回 大腿骨骨幹部骨折 復習	第12回 足関節部骨折と膝周辺部軟部組織損傷との鑑別																														
第13回 "	第13回 "																														
第14回 大腿骨遠位端部骨折について	第14回 " 整復固定実技																														
第15回 "	第15回 復習																														
修了認定の基準																															
<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。 ・単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。 ・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。 ・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。 ・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。 <p>この試験の点数は、実点の8割に計算される。</p>																															
評価方法																															
<ul style="list-style-type: none"> ・単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。 																															
使用教科書																															
<p>柔道整復学理論編・実技編を中心に標準整形外科学・神経整形外科学などを含めて授業を行う</p>																															

指導計画書

教科名 柔道整復実技
 対象者 柔道整復師科3年
 期間 前期・後期 2019年4月1日 ～ 2020年3月31日
 実務経験のある講師による指導 (全て) 一部・なし・その他())
 講師名 坂元 敏朗

実務履歴	整骨院 他 柔道整復師																																																																
指導内容及び指導方法																																																																	
<p> 下肢脱臼および軟部組織損傷の理論・各論を総合的に捉え、他の疾患と鑑別する。 下肢脱臼および軟部組織損傷の評価や後療法を身につける。 下肢の基本的な解剖を復習する。 </p> <p>講義内容：</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>脱臼総論(関節損傷)</td> <td>第1回</td> <td>軟部組織損傷 総論(筋損傷)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>脱臼総論(関節損傷)</td> <td>第2回</td> <td>軟部組織損傷 総論(腱損傷)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>骨盤周辺の解剖</td> <td>第3回</td> <td>軟部組織損傷 股関節(単径部痛症候群～単純性股関節炎)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>股関節周辺の解剖</td> <td>第4回</td> <td>軟部組織損傷 股関節(変形性股関節症～その他)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>股関節脱臼(鑑別および整復法)</td> <td>第5回</td> <td>軟部組織損傷 大腿部(大腿部打撲～大腿部骨化性筋炎)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>股関節脱臼(固定法、後療法)</td> <td>第6回</td> <td>軟部組織損傷 大腿部(検査法)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>膝関節周辺の解剖</td> <td>第7回</td> <td>軟部組織損傷 膝関節部(発育期の膝関節障害～ジャンパー膝)</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>膝蓋骨脱臼(鑑別および整復法)</td> <td>第8回</td> <td>軟部組織損傷 膝関節部(半月板損傷～十字靭帯損傷)</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>膝蓋骨脱臼(固定法、後療法)</td> <td>第9回</td> <td>軟部組織損傷 膝関節部(腸脛靭帯炎～変形性関節症)</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>膝関節脱臼(鑑別および整復法)</td> <td>第10回</td> <td>軟部組織損傷 膝関節部(検査法)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>膝関節脱臼(固定法、後療法)</td> <td>第11回</td> <td>軟部組織損傷 下腿部(コンパートメント～シンスプリント)</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>足部周辺の解剖</td> <td>第12回</td> <td>軟部組織損傷 下腿部(検査法)</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>足部の脱臼(鑑別および整復法)</td> <td>第13回</td> <td>軟部組織損傷 足部(足関節捻挫～扁平足)</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>足部の脱臼(固定法、後療法)</td> <td>第14回</td> <td>軟部組織損傷 足部</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>下肢脱臼まとめ</td> <td></td> <td>(後足部有痛性疾患～前足部有痛性疾患、検査法)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>第15回</td> <td>下肢軟部組織損傷まとめ</td> </tr> </table>		第1回	脱臼総論(関節損傷)	第1回	軟部組織損傷 総論(筋損傷)	第2回	脱臼総論(関節損傷)	第2回	軟部組織損傷 総論(腱損傷)	第3回	骨盤周辺の解剖	第3回	軟部組織損傷 股関節(単径部痛症候群～単純性股関節炎)	第4回	股関節周辺の解剖	第4回	軟部組織損傷 股関節(変形性股関節症～その他)	第5回	股関節脱臼(鑑別および整復法)	第5回	軟部組織損傷 大腿部(大腿部打撲～大腿部骨化性筋炎)	第6回	股関節脱臼(固定法、後療法)	第6回	軟部組織損傷 大腿部(検査法)	第7回	膝関節周辺の解剖	第7回	軟部組織損傷 膝関節部(発育期の膝関節障害～ジャンパー膝)	第8回	膝蓋骨脱臼(鑑別および整復法)	第8回	軟部組織損傷 膝関節部(半月板損傷～十字靭帯損傷)	第9回	膝蓋骨脱臼(固定法、後療法)	第9回	軟部組織損傷 膝関節部(腸脛靭帯炎～変形性関節症)	第10回	膝関節脱臼(鑑別および整復法)	第10回	軟部組織損傷 膝関節部(検査法)	第11回	膝関節脱臼(固定法、後療法)	第11回	軟部組織損傷 下腿部(コンパートメント～シンスプリント)	第12回	足部周辺の解剖	第12回	軟部組織損傷 下腿部(検査法)	第13回	足部の脱臼(鑑別および整復法)	第13回	軟部組織損傷 足部(足関節捻挫～扁平足)	第14回	足部の脱臼(固定法、後療法)	第14回	軟部組織損傷 足部	第15回	下肢脱臼まとめ		(後足部有痛性疾患～前足部有痛性疾患、検査法)			第15回	下肢軟部組織損傷まとめ
第1回	脱臼総論(関節損傷)	第1回	軟部組織損傷 総論(筋損傷)																																																														
第2回	脱臼総論(関節損傷)	第2回	軟部組織損傷 総論(腱損傷)																																																														
第3回	骨盤周辺の解剖	第3回	軟部組織損傷 股関節(単径部痛症候群～単純性股関節炎)																																																														
第4回	股関節周辺の解剖	第4回	軟部組織損傷 股関節(変形性股関節症～その他)																																																														
第5回	股関節脱臼(鑑別および整復法)	第5回	軟部組織損傷 大腿部(大腿部打撲～大腿部骨化性筋炎)																																																														
第6回	股関節脱臼(固定法、後療法)	第6回	軟部組織損傷 大腿部(検査法)																																																														
第7回	膝関節周辺の解剖	第7回	軟部組織損傷 膝関節部(発育期の膝関節障害～ジャンパー膝)																																																														
第8回	膝蓋骨脱臼(鑑別および整復法)	第8回	軟部組織損傷 膝関節部(半月板損傷～十字靭帯損傷)																																																														
第9回	膝蓋骨脱臼(固定法、後療法)	第9回	軟部組織損傷 膝関節部(腸脛靭帯炎～変形性関節症)																																																														
第10回	膝関節脱臼(鑑別および整復法)	第10回	軟部組織損傷 膝関節部(検査法)																																																														
第11回	膝関節脱臼(固定法、後療法)	第11回	軟部組織損傷 下腿部(コンパートメント～シンスプリント)																																																														
第12回	足部周辺の解剖	第12回	軟部組織損傷 下腿部(検査法)																																																														
第13回	足部の脱臼(鑑別および整復法)	第13回	軟部組織損傷 足部(足関節捻挫～扁平足)																																																														
第14回	足部の脱臼(固定法、後療法)	第14回	軟部組織損傷 足部																																																														
第15回	下肢脱臼まとめ		(後足部有痛性疾患～前足部有痛性疾患、検査法)																																																														
		第15回	下肢軟部組織損傷まとめ																																																														
修了認定の基準																																																																	
<ul style="list-style-type: none"> 原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。 単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。 原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。 不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。 病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。 この試験の点数は、実点の8割に計算される。 																																																																	
評価方法																																																																	
<ul style="list-style-type: none"> 単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。 																																																																	
使用教科書																																																																	
柔道整復学理論編 柔道整復学実技編 解剖学																																																																	

指導計画書

教科名 柔道整復実技
 対象者 柔道整復師科3年
 期間 前期・後期 2019年4月1日 ～ 2020年3月31日
 実務経験のある講師による指導 (全て) 一部・なし・その他())
 講師名 谷山 雄一

実務履歴	整骨院 他 柔道整復師		
指導内容及び指導方法			
講義内容:			
第1回	肩鎖関節脱臼(理論、整復、固定)	第1回	肘内障(理論、整復)
第2回	〃	第2回	〃
第3回	〃	第3回	肘内側側副靭帯損傷(理論、固定、検査)
第4回	肩関節脱臼(前方脱臼)(理論、整復、固定)	第4回	〃
第5回	〃	第5回	第1指MP関節脱臼(背側脱臼)(整復、固定)
第6回	〃	第6回	手指PIP関節脱臼(〃)(〃)
第7回	肩腱板損傷(理論、検査、固定)	第7回	復習(練習)
第8回	〃	第8回	第1指MP関節側副靭帯損傷(検査、固定)
第9回	上腕二頭筋長頭損傷(理論、検査、固定)	第9回	手指PIP関節 〃 (〃)
第10回	〃	第10回	復習(練習)
第11回	肘関節脱臼(後方脱臼)(理論、整復、固定)	第11回	ロッキングフィンガー(1、2指)(整復、固定)
第12回	〃	第12回	マレットフィンガー(整復、固定)
第13回	〃	第13回	〃
第14回	前期実技復習(練習)	第14回	復習(練習)
第15回	試験前練習(前期)	第15回	試験前練習(後期)
修了認定の基準			
<ul style="list-style-type: none"> 原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。 単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。 原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。 不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。 病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。 この試験の点数は、実点の8割に計算される。			
評価方法			
<ul style="list-style-type: none"> 単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。 			
使用教科書			
柔道整復学理論編・実技編			

指導計画書

教科名 柔道整復実技
対象者 柔道整復師科3年
期間 前期 2019年4月1日 ～ 2019年9月30日
実務経験のある講師による指導 (全て) 一部・なし・その他())
講師名 三浦 尚之

実務履歴	整骨院 他 柔道整復師
指導内容及び指導方法	
柔道整復師に必要な鑑別診断、評価の能力を身に付けるうえで特に、認定実技試験等にも出題される四肢脱臼軟損を中心的に、その他重要な疾患について学ぶ。	
講義内容： 第1回 鎖骨骨折実技 第2回 上腕骨外科頸骨折実技 第3回 上腕骨骨幹部骨折実技 第4回 橈骨遠位端部骨折実技 第5回 中手骨頸部骨折実技 第6回 肩鎖関節脱臼実技 第7回 肩関節脱臼実技 第8回 肘関節脱臼実技 第9回 肘内障実技 第10回 PIP脱臼実技 第11回 肋骨骨折実技 第12回 下腿骨骨幹部骨折実技 第13回 鎖骨骨折実技 第14回 肩関節脱臼実技 第15回 まとめ	
修了認定の基準	
•原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。 •単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。 •原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。 •不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。 •病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。 この試験の点数は、実点の8割に計算される。	
評価方法	
•単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。	
使用教科書	
柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	

指導計画書

教科名 総合演習
対象者 柔道整復師科3年
期間 前期 2019年4月1日 ～ 2019年9月30日
実務経験のある講師による指導 (全て・一部・なし・その他())
講師名 三浦 尚之

指導内容及び指導方法

柔道整復師に必要な知識を総合的に捉えて学習していく。

講義内容:

- 第1回 柔道整復師と国家試験科目(鎖骨骨折)
- 第2回 柔道整復師と国家試験科目(上腕骨外科頸骨折)
- 第3回 柔道整復師と国家試験科目(上腕骨骨幹部骨折)
- 第4回 柔道整復師と国家試験科目(橈骨遠位端骨折)
- 第5回 柔道整復師と国家試験科目(中手骨頸部骨折)
- 第6回 柔道整復師と国家試験科目(肩鎖関節脱臼)
- 第7回 柔道整復師と国家試験科目(肩関節脱臼)
- 第8回 柔道整復師と国家試験科目(肘関節脱臼)
- 第9回 柔道整復師と国家試験科目(PIP脱臼)
- 第10回 柔道整復師と国家試験科目(肘内障)
- 第11回 柔道整復師と国家試験科目(肋骨骨折)
- 第12回 柔道整復師と国家試験科目(下腿骨骨折)
- 第13回 柔道整復師と国家試験科目(まとめ)
- 第14回 柔道整復師と国家試験科目(まとめ2)
- 第15回 柔道整復師と国家試験科目(まとめ3)

修了認定の基準

- 原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
- 単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
- 原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
- 不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
- 病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

- 単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。

使用教科書

柔道整復学 理論編
柔道整復学 実技編

指導計画書

教科名 総合演習
対象者 柔道整復師科3年
期間 後期 2019年10月1日 ～ 2020年3月31日
実務経験のある講師による指導 (全て・一部・なし・その他())
講師名 三浦 尚之

指導内容及び指導方法

柔道整復師に必要な知識を総合的に捉えて学習していく。

講義内容:

- 第1回 柔道整復師と国家試験科目(必修問題)
- 第2回 柔道整復師と国家試験科目(解剖学)
- 第3回 柔道整復師と国家試験科目(解剖学)
- 第4回 柔道整復師と国家試験科目(生理学)
- 第5回 柔道整復師と国家試験科目(生理学)
- 第6回 柔道整復師と国家試験科目(運動学)
- 第7回 柔道整復師と国家試験科目(病理学)
- 第8回 柔道整復師と国家試験科目(衛生学、公衆衛生学)
- 第9回 柔道整復師と国家試験科目(関係法規)
- 第10回 柔道整復師と国家試験科目(リハビリテーション医学)
- 第11回 柔道整復師と国家試験科目(一般臨床医学)
- 第12回 柔道整復師と国家試験科目(一般臨床医学)
- 第13回 柔道整復師と国家試験科目(外科学)
- 第14回 柔道整復師と国家試験科目(整形外科学)
- 第15回 柔道整復師と国家試験科目(柔道整復学)

修了認定の基準

- ・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
 - ・単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
 - ・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
 - ・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
 - ・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
- この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

- ・単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。

使用教科書

柔道整復学 理論編
柔道整復学 実技編

指導計画書

教科名 総合演習
対象者 柔道整復師科3年
期間 後期 2019年10月1日 ～ 2020年3月31日
実務経験のある講師による指導 (全て・一部 なし、その他())
講師名 三浦 尚之

指導内容及び指導方法

柔道整復師に必要な知識を総合的に捉えて学習していく。

講義内容:

- 第1回 柔道整復師と国家試験科目(必修問題)
- 第2回 柔道整復師と国家試験科目(解剖学)
- 第3回 柔道整復師と国家試験科目(解剖学)
- 第4回 柔道整復師と国家試験科目(生理学)
- 第5回 柔道整復師と国家試験科目(生理学)
- 第6回 柔道整復師と国家試験科目(運動学)
- 第7回 柔道整復師と国家試験科目(病理学)
- 第8回 柔道整復師と国家試験科目(衛生学、公衆衛生学)
- 第9回 柔道整復師と国家試験科目(関係法規)
- 第10回 柔道整復師と国家試験科目(リハビリテーション医学)
- 第11回 柔道整復師と国家試験科目(一般臨床医学)
- 第12回 柔道整復師と国家試験科目(一般臨床医学)
- 第13回 柔道整復師と国家試験科目(外科学)
- 第14回 柔道整復師と国家試験科目(整形外科学)
- 第15回 柔道整復師と国家試験科目(柔道整復学)

修了認定の基準

- ・原則として、履修時間3分の2以上の出席時数をもって単位認定試験を受ける資格を与える。
- ・単位認定試験(学科・実技試験)、授業・実験・実習態度、および与えられた課題の合格をもって所定の単位を与える。
- ・原則として、単位認定試験の合格点は60点以上とする。
- ・不合格の場合は、期日を定めて再試験を行う。
- ・病気その他正当と認められる理由により、試験を受けられなかった場合は、追試験によって単位の認定を受けることができる。
この試験の点数は、実点の8割に計算される。

評価方法

- ・単位認定試験(学科・実技試験)の得点、授業・実験・実習態度、課題の提出内容を対象として評価し、80点以上を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、59点以下を「不可」(不合格)とする。

使用教科書

柔道整復学 理論編
柔道整復学 実技編